

さんさんまる  
越冬完熟不知火「デコ330」の安定生産に向けて

【研究のポイント】

大分県南部で生産・販売されている「デコ330」は、樹に成らせたまま越冬し3～4月に完熟して収穫するため、通常の不知火より糖度が高く食味が良好で、市場では高単価で取引されています。しかし、長期間風雨にさらされるため、果実が腐敗する「水腐れ症」の発生が問題となります。水腐れ症は、完全着色後果皮の老化現象により果梗部周辺に生じた微細な亀裂に雨水、病原菌が侵入することで発生します。

そこで、水腐れ症の発生を防ぐため、①ビニール被覆試験と②ジベレリン※散布の効果の検証を行いました。

水腐れ症



※ジベレリン:果皮の老化抑制の効果がある植物生長調整剤

①ビニール被覆試験

《方法》

樹全体をビニールで被覆(被覆日:11月26日)  
約10日ごとに水腐れ症発生率を調査



真ん中に支柱を立て、樹全体を被覆する。通気性確保のため、側面に切れ込みを入れる。

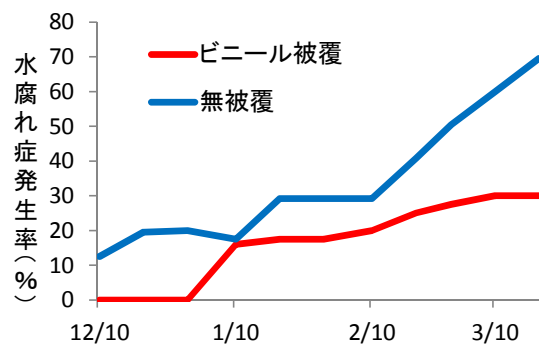
収穫日

ビニール被覆区:4月19日に収穫

無被覆区:水腐れ症が多発したため、

3月16日に収穫、その際に調査終了

《試験結果》



ビニール被覆区の方が無被覆区よりも水腐れ症の発生が少なかった

【研究の成果】

②ジベレリン効果の検証

《方法》

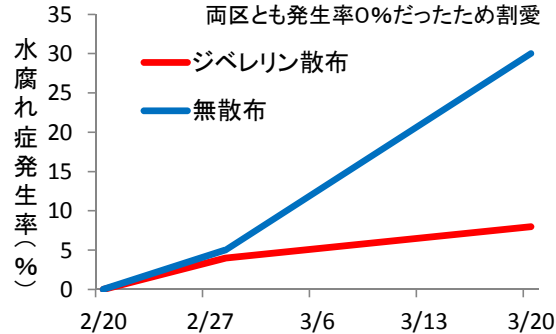
9分着色期にジベレリンを散布  
散布日:11月30日  
散布濃度:5,000倍(1ppm)

(2月28日収穫後常温貯蔵し、約30日ごとに水腐れ症発生率を調査)



9分着色期  
→デコの部分に緑が残っている時期。

《試験結果》



※2/20以前の調査データについては両区とも発生率0%だったため割愛

無処理区では収穫後の貯蔵中に水腐れ症が多発したが、ジベレリン散布区では発生は少なかった

ビニール被覆により樹上での水腐れ症の発生が減少し、ジベレリンの効果も確認できた。

【生産者の声】



ビニール被覆とジベレリン散布により、水腐れ症の発生はほとんどなくなり、ある程度の安定生産が可能になりました。「デコ330」は通常不知火に比べ単価も高いため「農家が儲かる品目」として、関係機関と連携し、今後さらに推進を図ってきたいと考えています。

【県南デコポン部会 部会長 箕河原 次男さん】

【連絡先】

担当:農業研究部 果樹グループ カボス・中晩柑チーム  
TEL:0972-82-2837  
住所:津久見市津久見浦福3456